

「中山輝也様の叙勲をお祝いする集い」次第

日時:平成19年12月6日(木) 18時~20時30分

場所:ニューオータニイン東京「おとりの間」

(敬称 略)

	司会:(社)日本技術士会 副会長	岩熊 まき
お祝いの独唱	二期会ソプラノ歌手	加藤 江美
開会のことば	(財)国民工業振興会 専務理事	吉武 進也
会長挨拶	(社)日本技術士会 会長	高橋 修
祝辞	(社)日本技術士会 顧問	梅田 昌郎
祝辞	(社)日本技術士会 顧問	都丸 徳治
謝辞	旭日双光章叙勲者	中山 輝也
記念品贈呈	(社)日本技術士会 顧問	佐藤 清
花束贈呈	中日本建設コンサルタント(株) 理事 (社)日本技術士会 常務理事	中西 利美 大谷 邦博
乾杯	(社)日本技術士会 顧問	清野 茂次
<会食・懇談>		
祝辞	(有)SYSBRAINS 代表取締役	橋本 義平
祝辞	(社)日本技術士会 東北支部長	吉川 謙造
祝辞	オランダ人技術者業績研究会 代表	上林 好之
祝辞	(社)日本技術士会 専務理事	竹下 功
祝辞	(社)日本技術士会 北陸支部幹事	小熊 修徳
音楽	二期会ソプラノ歌手 シンセサイザー	加藤 江美 法領田 れい子
閉会のことば	(社)日本技術士会 副会長	吉田 克己
集合写真		

参加者名簿

氏名	テーブル
中山輝也様	A
中山和子様	A

(敬称略、氏名五十音順)

(印：発起人)

氏名	テーブル
青葉 堯	F
池田 友久	C
稲垣 正晴	F
井上祥一郎	E
岩熊 まき	B
梅田 昌郎	A
大谷 政敬	G
岡崎 孝雄	F
小熊 修徳	B
奥村 貞雄	D
垣内 直	F
粕谷 太郎	E
上林 好之	B
神戸 良雄	B
君島 光夫	D
黒澤 豊樹	D
高堂 彰二	H
湖上 国雄	E
古西 義正	C
小林 洋一	D
小針 輝夫	D
小山 一男	G
近藤 英樹	C
斉藤 有司	C
阪本 三郎	D
佐藤 清	A
佐藤 直衛	G
清水 進	G
杉本 泰治	D
清野 茂次	A
関矢 英士	C
高井 英雄	E
高橋 修	A
田吹 隆明	F
玉井 丈生	F
茶木 英一	B
辻本 仁一	E
都丸 徳治	A
長友 正治	E
中西 利美	F
中原 幸政	F
中村 隆爾	G
中山 直樹	C
野村 亨	E
橋本 義平	B
畠山 正樹	G
畠中 武文	D
原田 武重	E
樋口 晃敏	G

氏名	テーブル
平野 輝美	H
福岡 悟	C
藤田 忠宏	G
保坂 彬夫	G
溝辺 哲男	B
宮原 宏	F
森田 裕之	F
安田 晃	C
山口 豊	C
山崎 宏	D
吉川 謙造	B
吉田 克己	B
吉武 進也	A
吉田 保	G
渡辺 敬蔵	C

(音楽家)

加藤 江美	A
法領田れい子	E

(事務局)

竹下 功	B
大谷 邦博	H
西村 文夫	H
青木 章吾	H
渥美 純一	H
秋山 誠	H
中澤 浩介	H
籠原 一誠	H
井上 勝彦	H

(ご芳志を頂いた方)

安藤 正博
井出 宏
伊藤 徹
上野 曄男
内田 潤一
大島 紀房
笠原 弘之
北村 友博
小出 剛
是永 逸生
高木 茂知
立田 栄三
永田 一良
藤井三千勇
本田 尚士
牧山 昭彦
光岡 毅

冬の星座

堀内敬三 詞 曲

木枯しとだえて
 さゆる空より
 地上に降りしつゝ
 奇しき光よ
 ものみないこえる
 ししまの中に
 きらめき揺れつつ
 星座はめぐる
 ほのぼの明りて
 流るる銀河
 オリオン舞い立ち
 スバルはさざめく
 無窮をゆびさす
 北斗の針と
 きりめき揺れつつ
 星座はめぐる

上を向いて歩こう

水六輔 詞 曲 中村八大

上を向いて歩こう
 涙がこぼれないように
 思い出す春の日
 一人ぼっちの夜
 上を向いて歩こう
 にじんだ星をかざして
 思い出す夏の日
 一人ぼっちの夜
 幸せは雲の上に
 幸せは空の上に
 上を向いて歩こう
 涙がこぼれないように
 泣きながら歩く
 一人ぼっちの夜
 「……………」
 思い出す秋の日
 一人ぼっちの夜
 悲しみは星の影に
 悲しみは月の影に
 上を向いて歩こう
 涙がこぼれないように
 泣きながら歩く
 一人ぼっちの夜
 一人ぼっちの夜……………

四季の歌

荒木とよひき 詞・曲

春を愛する人は
 心清き人
 すみれの花のような
 僕の友達
 夏を愛する人は
 心強き人
 岩をくだく波のような
 僕の父親
 秋を愛する人は
 心深き人
 愛を語るハイネのような
 僕の恋人
 冬を愛する人は
 心広き人
 雪をとがす大地のような
 僕の母親

琵琶湖周航の歌

小口太郎 詞・曲

我はうみの子 さすらいの
 旅にしあれば しみじみと
 暮るるまきのや さね波の
 滋賀の都よ いちねびは
 松は緑に 砂白き
 雄松が里の おとめは
 赤い樺の 森影に
 はかない恋に 泣くとかや
 波の間に間に 涙えば
 赤い油り火 なつかしみ
 行方定めぬ 波枕
 今日日は今津か 長浜か
 西園十番 長命寺
 汚れのついで世遠く去りて
 黄金の波に いまじかん
 語れ代が友 熱き心

花

武島 羽衣 詞
滝 廉太郎 曲

春のつばしの 隅田川

ふるさと

うさぎは遠いし かの山
小鮒釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき ふるさと

いかにいます 父母
つつがなしや 友がき
雨に風に つけても
思い出す ふるさと

こころざしを はたして
いつの日にか 帰らん
山はあおむ 心るさへ
水は清き 心るさへ

のぼりぐだりの 船人が

かいのしずくも 花と散る

ながめを何に たとうべき

見ずやあけほの 露あびて

われにもいう 桜木を

見ずや夕暮れ 手をのべて

われさし招く 青柳を

にしき纏りなす 長堤に

夢むればのほろ おほる月

げに一刻も 千金の

ながめを何に たとうべき

百万本のバラ

A・パウルス 曲
松山 登三 訳

信じてくれますか ひとりの若者が
小さな家を売り バラを買いました
信じてくれますか 嘘だと思つてしょう
街中のバラを あなたに贈るなんて

バラを バラを バラをください

ありったけのバラをください

あなたの好きなバラの花で

あなたを あなたを あなたを包みたい

バラを バラを バラをください

百万本のバラをください

僕の 僕の この命

あなたに あなたに あなたに捧げたい

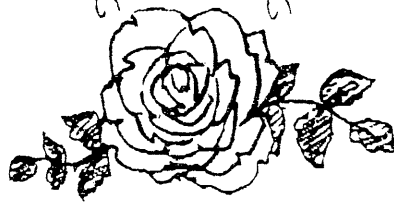
美しい絵描きの僕に できるのはひとつ

何もかも捨てて あなたを思うこと

誰も知らない 心のささやきを

花びらに添えて あなたに贈りたい

（くり返し）



出逢いは短く あなたはもういない
あなたは踊り子 街からまた街へ
夜汽車の窓へで あなたは想うだろう
見えない愛の火が この世にあるのだと

くるくる くるくる くるくる回る

真赤なサテンのトゥ・シューズ

残った僕の熱い心には

甘い思い出 涙の雫

あなたに捧げたバラの花は

枯れても 枯れても 枯れても我が命

あなたの あなたの あなたの胸に咲く

あなたの姿は遠く消えても

僕の 僕の 僕の ある限り

君への 君への 君への愛は

燃えて 燃えて 燃えて 燃えるよ

燃えて 燃えて 燃えて 燃えるよ

燃えて 燃えて 燃えて 燃えるよ